

魅力発信！えひめ農業NOW

令和4年5月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、7月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

目次

| | |
|-------------------------------------|----|
| 目次 | 1 |
| 5月のトピックス5選 | 3 |
| ■うま茶の産地統一ブランド名「結の霧ひめ」の発表 | 3 |
| ■オリーブの特産品開発に向け関係者と協議 | 4 |
| ■甘平の高品質安定生産に向けた実証試験を開始 | 5 |
| ■和菓子原料向けびわの安定生産に向けた現地研修会を開催 | 6 |
| ■南予用水を利用したマルドリ栽培講習会を開催 | 7 |
| えひめ農業NOW | 8 |
| 東予地方局 地域農業育成室 | 8 |
| ■農作業受注システムの開発に向けて | 8 |
| ■「白いも」のコガネムシ被害低減実証試験を開始 | 8 |
| ■農家アドバイザーが就農初期農業者に施設野菜経営を指導 | 9 |
| 東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班 | 10 |
| ■青年農業者が園児のさつまいも植付け体験会を開催 | 10 |
| 東予地方局 産地戦略推進室 | 11 |
| ■いちご良質苗の確保に向けて育苗講習を実施 | 11 |
| ■加工用青ねぎ新品種の収量を確認 | 11 |
| 今治支局 地域農業育成室 | 12 |
| ■菊間町の青年農業者が柑橘園地を視察 | 12 |
| ■今治地域の鳥獣被害防止対策推進に向け、関係者が情報共有 | 12 |
| 今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班 | 13 |
| ■上浦地区早期復興ワーキングチーム員が先進地を視察 | 13 |
| 今治支局 産地戦略推進室 | 14 |
| ■甘長とうがらしの低コスト型環境制御技術をメーカー等と協議 | 14 |
| ■醸造用ぶどう栽培研修会を開催 | 15 |
| 中予地方局 地域農業育成室 | 16 |
| ■中予地域のユウカリ産地拡大に向けて | 16 |
| ■ユウカリ産地拡大に向けた樹形の検討、新規ユウカリ品種の導入の実証開始 | 16 |
| ■さといも「愛媛農試V2号」の産地化を推進 | 17 |
| ■さといも「媛かぐや」の安定生産に向けて | 17 |
| 中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班 | 18 |
| ■「シロガネコムギ」の収穫始まる | 18 |
| ■「媛かぐや」の育苗を指導 | 18 |
| ■さといもの省力栽培に向けたハイクリ乗用型管理機による土入れ作業を実演 | 19 |
| 中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班 | 20 |
| ■第1回久万高原ブランドづくり推進会議の開催 | 20 |
| 南予地方局 地域農業育成室 | 21 |
| ■被災園地の早期営農再開に向けた協議を実施 | 21 |
| ■セル苗を用いた種用さといも栽培の挿し芽を実施 | 21 |
| ■年収1千万円の実現に向け第1回担い手育成戦略検討会議を開催 | 22 |
| ■未来の地域農業を担う果樹同志会の取組を支援 | 22 |
| ■「就農支援チーム」の構築に向けて、受入れ農家の意向調査を実施 | 23 |
| 南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班 | 24 |

| | |
|---|----|
| ■桃及び加工桃の栽培講習会を開催..... | 24 |
| ■ドローンを用いた除草剤散布で水稲栽培の省力化を実証..... | 24 |
| ■キウイフルーツ雄樹の花蕾を初収穫..... | 25 |
| ■第1回有機農業講座を開催 ～微生物農薬を利用したカミキリムシ防除について～..... | 25 |
| ■鬼北のきゅうり産地に若手新規栽培者が誕生..... | 26 |
| 南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班..... | 27 |
| ■農業用無人ヘリコプターを活用した水稲防除を検討..... | 27 |
| ■「河内晩柑」の縮間伐による省力化を推進..... | 27 |
| ■「河内晩柑」の省力栽培に向けた動画マニュアル制作がクランクイン！..... | 28 |
| ■愛南地区青年農業者協議会が優良農業実践集団知事表彰を受賞..... | 28 |
| ■「河内晩柑」ジュースのお接待で生果・加工品・GTメニューを紹介..... | 29 |
| 南予地方局 産地戦略推進室..... | 30 |
| ■ゆず園地での排水不良対策実証ほを設置..... | 30 |
| ■「つるむらさき」の産地化推進に向けて..... | 30 |
| ■うめ春季摘心処理技術の普及へ個別指導を強化..... | 31 |
| 八幡浜支局 地域農業育成室..... | 32 |
| ■スマート農業技術の普及に向けた活動計画を検討..... | 32 |
| ■マルドリ栽培モデル園で技術研修会を開催..... | 32 |
| ■冷蔵貯蔵の「清見」を大型商業施設でPR..... | 33 |
| ■「清見」の夏季販売について大規模小売店と商談..... | 33 |
| ■一次産業女子グループ「∞農(はちのう)Harvest」が組織力を強化..... | 34 |
| 八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班..... | 35 |
| ■消費者ニーズに合った柿生産に取り組む..... | 35 |
| ■イノシシの捕獲強化に向けた取組み推進..... | 36 |
| ■ぶどう用アシストスーツの実用性を検証..... | 36 |
| 八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班..... | 37 |
| ■「ひめの凜」の普及拡大に向けた実証ほ設置..... | 37 |
| ■麦類の収穫適期を予測し、管理を徹底！..... | 37 |
| ■加工・業務用青ねぎ生育・収穫予測システムの実用化に向け生育データを集積..... | 38 |
| 八幡浜支局 産地戦略推進室..... | 39 |
| ■R4年産川田温州の連年安定生産に向けて！..... | 39 |
| 農産園芸課 高度普及推進グループ..... | 40 |
| ■水稲採種ほにおける種子の品質向上を目指して..... | 40 |
| ■紅プリンセスの根域制限等栽培モデル園で順調な生育を確認..... | 41 |

5月のトピックス5選

■うま茶の産地統一ブランド名「結の霧ひめ」の発表

東予地方局地域農業育成室
四国中央農業指導班

- 四国中央農業指導班は5月27日、四国中央市役所で開催されたうま茶の産地統一ブランド名称発表会の運営を支援した。
- この発表会は、うま茶振興協議会（協純樹会長）が県内最大の産地である四国中央市産茶のイメージ向上と更なるPRのため、統一ブランド名（産地の愛称）と新商品（新宮・富郷ブレンド焙じ茶）の紹介を行うもので、いずれも「結の霧ひめ（ゆいのきりひめ）」と命名された。
- 当日は、協議会構成機関の代表者3人（(有)協製茶場、大西茶園、JAうま）が四国中央市長に名称の決定を報告した後、焙じ茶の試飲を行った。篠原市長は「すっきりとしておいしい」と太鼓判を押し、協会長は「焙煎にじっくり手間をかけた自慢の逸品、ぜひ味わって欲しい」と力強くPRした。
- 「結の霧ひめ」は、商品展開や産地のPR等に活用されることとなり、指導班は、愛あるブランド製品の認定や国内外への販売拡大を目指し、今後も協議会活動や産地の活性化等を支援していく。



発表会（マスコミ公開）



「結の霧ひめ（新宮・富郷ブレンド焙じ茶）」

■オリーブの特産品開発に向け関係者と協議

今治支局産地戦略推進室

- 産地戦略推進室は、5月17日に県養鶏研究所とオリーブの生産グループを訪問し、オリーブの搾りかすの飼料化に係る協議を行った。
- オリーブの搾油時には果実の90%以上が搾りかすとなり、昨年は2.5 t以上をほ場に還元していたことから、当室がポリフェノールや油分が多い搾りかすの有効利用を養鶏研究所に提案し、本年度より搾りかすを飼料に混ぜる「オリーブ卵」の開発に取り組むことになった。
- 協議では、生産者からは「オイルと塩漬けに次ぐ商品開発はおもしろい」「搾りかすの水分が多く酸化しやすいので運搬が課題」などの意見があり、今後同研究所では搾りかすの成分や鶏の嗜好性を調査するとともに、当室は、「オリーブ卵」の商品化を見据えた需要調査も実施する。
- また、当室は地元の明德短期大学の調理ビジネスコースとのオリーブ等の地元食材を利用した特産メニュー開発に取り組んでおり、5月18日には同校においてメニュー開発から発表、試食会に至るスケジュール等を協議した。
- 当室は、今年度、しまなみ地域の食材を生産、加工、販売する関係者が参加する協議機会を設け、複数の特徴ある地元食材がコラボする商品開発やイベントの開催等により、しまなみ地域の農業振興や新たなイメージ作りに取り組む。



「オリーブ卵」に関する生産者との協議



特産メニュー開発に係る地元大学との協議

■甘平の高品質安定生産に向けた実証試験を開始

中予地方局産地戦略推進室

- 産地戦略推進室は5月23日、甘平の高品質安定生産を目指し、令和4年度からJA等と連携して取り組む「園地条件対応型技術確立試験」の実証内容の検討と情報共有を目的に「魅力ある中晩柑産地づくり会議」を開催し、県・市町・JAの関係者21人が出席した。
- 会では、当室から、これまでの調査結果や実証試験の必要性を説明し、今年度は、「総合的裂果対策（土壌改良・水分計によるかん水管理・遮光処理・マルチ被覆）」と「水分計によるかん水管理」の実証を松山市、伊予市、砥部町の園地計10か所を実施し、JA等と連携して効果を検証していくこととした。
- 当室では、引き続き、園地条件に対応した高品質安定生産技術の確立による甘平産地の強化に取り組むこととし、実証結果については、「中予版栽培改善事例集」として取りまとめる。



魅力ある中晩柑産地づくり会議



オーガによる土壌改良作業

■和菓子原料向けびわの安定生産に向けた現地研修会を開催

南予地方局地域農業育成室

- 地域農業育成室は5月27日、JAえひめ南と連携して、宇和島市西三浦で加工用びわの出荷説明会を開催し、初出荷を迎える生産者1人を含む6人に、着色状況を確認しながら厳選出荷を指導した。
- 今年度は、低温等の影響で例年と比較して開花が遅れたことから、一部には生育にバラつきのある果実がみられるが、春以降は好天に恵まれ昨年並みの供給ができる見込み。
- また、出荷説明会に合わせ、当室が地方局予算事業「高級菓子用くだもの育成・ブランド開発事業（令和元～3年）」を活用して実施した袋かけ作業の省力・低コスト化実証ほを確認。ポリエステル製で収縮性のある果実被覆資材等を用いることで、通常の紙袋に比べ作業時間は同等、コストは約25%削減できる可能性があることを説明した。
- 今後は、収穫時の品質を評価し、課題を整理しながら加工に特化した省力・低コスト化技術の確立を目指す。



一部果実は生育にバラつき



収縮性被覆資材



防鳥ネット利用

■南予用水を利用したマルドリ栽培講習会を開催

八幡浜支局地域農業育成室

- 地域農業育成室は5月2日、真穴地区の新規マルドリ導入園において、真穴青壮年同志会員35人を対象に、南予用水を利用したマルドリ栽培講習会を開催した。
- 真穴地区では、昨年度に「農地耕作条件改善事業」を利用して、南予用水を活用したマルドリ施設が9.6ha（8戸）で導入され、今春より運用を開始している。
- 当室は、南予用水を利用したマルドリ栽培のマニュアルを新たに作成しており、これを用いて栽培の注意点等を説明した。
- 特に、ドリップ直下に細根が集まるとマルドリの効果が高く現れるが、このような状態になるにはある程度の期間が必要のため、運用を開始した園地では積極的にかん水、液肥による施肥を行うよう指導した。
- また、参加者からは、肥料の種類や量、時期等について、多くの質問があり、設置された機械の仕組みと使い方についても詳しく説明を行った。
- 当室は、みかん研究所と連携して、今年から国の「スマート農業産地形成実証事業」に取り組むため、今回設置された園地の中で実証ほを設置して調査する計画である。



南予用水を利用したマルドリ施設(液肥混入器)



マルドリ栽培マニュアルの説明

えひめ農業 NOW

東予地方局 地域農業育成室

■農作業受注システムの開発に向けて

- 地域農業育成室は5月23日、今年度から取り組む地方局予算事業「農福連携デジタル化支援事業」を推進するため、農作業受注システム検討会議を西条第2庁舎で開催し、関係者22人（集落営農組織、福祉事業者、JA、市、県関係者）と活動計画を協議した。
- 検討会では、福祉事業者からは「農作業の映像化により作業の効率化が期待できる」、集落営農組織からは「農福双方が作業内容を共有しやすくなる」などの意見があり、デジタル化による農作業受注システムへの期待は強いと再認識したところ。
- 同システムの構築には、県内で農業に特化した人材派遣サイトを運営する会社をアドバイザーとして迎え、仕様等を検討し、12月の仮システム試験運用を目指す。



関係者による意識統一

■「白いも」のコガネムシ被害低減実証試験を開始

- 地域農業育成室は5月25日、新居浜市大島で「白いも」のコガネムシ軽減薬剤の実証試験を開始した。
- 「白いも」は大島地区の特産農産物で需要は高い。しかし、昨年は、コガネムシの被害を受けたことで正品率が50%と低く、生芋の販売が需要に応えられない状況であった。
- このため、「白いも」の生産量やコガネムシ対策による正品率向上のため、薬剤による防除と全面マルチによる除草効果を検証する実証ほを設置した。
- 当室では、収穫後に正品率を調査し、結果を生産者へ周知する。



実証ほ定植作業

■農家アドバイザーが就農初期農業者に施設野菜経営を指導

- 地域農業育成室は、西条地区認定農業者等連絡協議会と共催で、5月23日、就農初期の農業者等の早期経営自立に向け、当室が農家アドバイザーとして活動を依頼している今井伸弘氏を講師に、今井氏の野菜ハウスで現地研修会を開催し、20人が熱心に受講した。
- アドバイザーは、いちごとトマトのハンモック養液栽培、収穫を間近に控えたメロンとスイカの栽培方法、周年施設を活用するための栽培品目のローテーションなど、栽培と経営のポイントを詳しく説明した。
- 参加者は、ハンモック栽培の土作りや肥培管理、メロン等の水管理や温度管理、収穫時期の見極めなど質問をしながら熱心に受講し、引き続きの個別指導依頼にアドバイザーも快諾した。
- 当室は、農家アドバイザー（農業指導士・認定農業者協議会理事）の協力を得て、引き続き担い手の早期自立に向けた支援を行う。



農家アドバイザーが技術・経営について説明



熱心に受講する就農初期の農業者

東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班

■青年農業者が園児のさつまいも植付け体験会を開催

- 四国中央農業指導班は5月23日、青年農業者が行うさつまいも植え付け体験会を支援した。
- この体験会は、四国中央青年農業者連絡協議会が食農教育活動の一環として毎年実施している行事で、コロナ禍で3年ぶりの開催となる今回は、市内保育園児25人が参加した。
- 当日は、青年農業者から手順の説明を受けた後、園児たちは笑顔を交えながらも真剣な面持ちで、約千本の苗を一時間ほどかけて植え付けた。秋には収穫体験会の開催を予定している。
- 園児には、農作業の楽しさや食について考える良い機会となり、青年農業者も将来の担い手や子供たちへの食育活動として重要な取組みであるとの認識で一致しており、今後とも青年農業者の組織活動強化を支援していく。



笑顔の中にも真剣な植え付け作業

東予地方局 産地戦略推進室

■いちご良質苗の確保に向けて育苗講習を実施

- 産地戦略推進室は4月28日、5月20、23日の3回、管内3JAの部会員計24人に対して育苗管理の徹底を指導した。
- 特に、去年は、育苗期間中の長雨による土壌病害（萎黄病と炭疽病）が多発して良質苗が不足したことから、病気の蔓延を防ぐための早期発見・早期防除の徹底を呼び掛けた。
- 参加者からは、病原菌の死滅温度や防除資材の使用量、断根処理の影響など多くの質問があり、対策への意欲が感じられた。
- 当室は、引き続き関係機関と連携し、育苗作業が本格化する7～8月にかけて巡回の回数を増やし、安定したいちご生産に向けた現場指導を徹底する。



育苗講習会

■加工用青ねぎ新品種の収量を確認

- 産地戦略推進室は5月23日、昨年11月から実証している新品種の収量調査を行った。
- 新品種「春京香」は、先月までの調査で品質を低下させる抽苔(ねぎ坊主)の発生がほとんど無く、収量面でも現行の主力品種「緑秀」と同等であることを確認。
- 当室では、今回収穫した株から再生したものについても6月に調査を行う予定。



現行品種「緑秀」(左)と新品種「春京香」(右)

今治支局 地域農業育成室

■菊間町の青年農業者が柑橘園地を視察

- 今治支局地域農業育成室は5月17日、今治市菊間町の柑橘栽培を経営の柱とする青年農業者ら9人を対象に、生産意欲の向上や栽培技術に関する知識を広めることを目的として、同室岩城駐在と伯方町の柑橘農家の視察を実施した。
- 岩城駐在では、「愛媛果試第48号(紅プリンセス)」の栽培管理や「甘平」の裂果軽減技術、柑橘園地での省力化などについて学び、参加者は熱心に耳を傾けていた。また、伯方町の柑橘農家では、スピードスプレーヤー(SS)での防除体験なども行い、「樹の内部にも薬液が十分かかっており、手散布と比べて早く楽だったので導入を検討したい」などの声が上がった。
- 視察後、参加者からは「栽培管理の方法など、非常に参考になった」「今後も定期的に勉強していきたい」などの声上がり、充実した視察となった。
- 当室は、今後も視察や勉強会等を開催し、青年農業者の経営発展を支援する。



ほ場視察(愛媛果試第48号の栽培管理について)



SSでの防除体験

■今治地域の鳥獣被害防止対策推進に向け、関係者が情報共有

- 今治地域農業育成室は5月23日、「令和4年度第1回今治地域鳥獣被害防止対策協議会(会長:地域農業育成室長)」を開催し、管内の市町・団体や地元猟友会等関係者19人が参加。
- 当協議会は、今治市及び上島町における農作物への鳥獣被害防止対策を推進するため、年2回程度開催。関係者が一堂に会し、被害状況や各種事業実施状況等の情報交換、今後の対応方策等のほか、地域間の連携等について協議している。
- 同室からは、新たに取り組んだドローンを活用した集落環境調査や鳥類追払い実証、複合柵を用いた猿の果樹園侵入防止対策等各種実証ほの実績報告と本年度実証計画を報告するとともに、市町からは新規事業への取組等、関係団体からは損害防止補助事業等について情報提供があった。
- 地元猟友会から捕獲従事者の高齢化・担い手不足について課題提起があり、若手ハンター(特に銃器狩猟免許取得者)の確保育成や新規事業の活用による被害防止対策の推進に向け、関係者の意識統一が図られた。



今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班

■上浦地区早期復興ワーキングチーム員が先進地を視察

- 今治支局地域農業育成室は5月16日、上浦地区早期復興ワーキングチーム員を対象に、ほ場整備の取組、営農の考え方や土づくりを学ぶため、松山市高浜地区と下難波地区の基盤整備ほ場の現地視察と意見交換を行った。
- 参加者らは、基盤整備ほ場での堆肥の施用における施用量や有効土層の深さについて熱心に質問し、かん水方法や水源の確保等について耳を傾けていた。
- 視察後は室内で、果樹研究センターやJAえひめ中央から、ほ場整備後の早期成園化に向けた注意点や堆肥等の土づくりの重要性について情報提供があり、参加者からは「基盤整備における土づくりの重要性がわかり非常に参考になった」などの声上がり、有意義な視察となった。
- 当室は今後もワーキングチーム会を開催し、上浦地区早期復興に向けて支援する。



現地視察（松山市高浜地区）



現地視察（松山市下難波）



意見交換

今治支局 産地戦略推進室

■甘長とうがらしの低コスト型環境制御技術をメーカー等と協議

- 産地戦略推進室は5月13日、今治市玉川町の甘長とうがらし栽培ほ場で、大手農業資材メーカーの研究者、JA、生産者と養液管理技術等に係る調査を行った。
- 同園地では、本年度より、普及組織先導型革新的技術導入事業を活用した県内初の甘長とうがらしの高設栽培ベットと専用培地での養液栽培が始まっている。
- 当日は、甘長とうがらし栽培における適切な培地内水分量や養液濃度の基準等を定めるため、培地内の養液を採取し、定期的にメーカーで分析していくことになった。
- また、当室はハウス内の環境変化が激しくなることを見据え、ハウス内の日照量や湿度、CO2濃度等を自動で測定するプロファイnderを設置し、高温になっても絶えず葉の気孔が開くよう低コスト型の細霧ミスト装置やCO2発生装置を活用した飽差管理を行っている。
- 当室では、高騰する農業資材コストの低減を図るため、単肥配合で独自性の高い技術を持つバラ栽培農家の処方等についても調査しており、これらの実証、調査データを基に低コスト型の多収栽培技術を確立する。



生産者と環境測定数値の確認



大手メーカー、JA、県での管理技術の検討

■醸造用ぶどう栽培研修会を開催

- 産地戦略推進室は5月27日、地方局予算事業「しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業」の一環として今治市大三島の地元ワイナリーの契約農家及び新規栽培希望者を対象とした醸造用ぶどう栽培研修会（兼栽培体験会）を開催し、生産者11人（うち新規2人）が出席した。
- 研修会では当室担当者がぶどうの病害や今年度の気象の影響について説明し、「株式会社大三島みんなのワイナリー」の川田氏を講師に、摘心や誘引についての実演と作業実習を行った。
- 昨年は夏季の日照不足による果実の低糖度化が問題となったことから、糖度上昇のために副梢管理方法の改善を図り、参加者同士で処理時期や簡易な処理方法についての意見交換を行い、高品質果実の生産に向け意識を統一した。
- ぶどうの品質はワインの出来に大きく影響することから、当室では今後マルチ被覆実証などぶどうの高品質生産技術の確立に取り組むほか、県オリジナルいちご品種「あまおとめ」を原料としたワインづくりなども支援し、ワイナリーを含めたしまなみ地域の農業の活性化を図る。



ぶどうの病害について説明



作業実習を実施

中予地方局 地域農業育成室

■中予地域のユーカリ産地拡大に向けて

- 地域農業育成室は5月25日、県・市・JAの関係者12人出席のもと、「令和4年度第1回中予地域ユーカリ生産対策協議会」を開催した。
- 同会では苗供給体制の確立、安定生産技術の確立、新規ユーカリ品種の導入について協議を行い、出荷枝の品質の違いや栽培に適したほ場条件の指標作成等、今後検討が必要な課題が抽出された。
- 今後当室は、関係機関と連携しながら、品質の安定化や向上を図り、消費者・市場から信頼されるユーカリ産地を目指す。



協議内容について説明



排水性改善技術に用いるアースオーガの説明

■ユーカリ産地拡大に向けた樹形の検討、新規ユーカリ品種の導入の実証開始

- 地域農業育成室は5月2日、JA松山市、JAえひめ中央と連携し、ユーカリの樹形検討と新規導入品種検討の実証を開始した。
- 当室では、管内は1本仕立てや2～4本仕立ての樹形が混在しており、収穫枝の本数や長さなどが異なっていることから、仕立て方の違いによる収量を比較するための実証ほを設置し、樹形と品質や収量の関係性を明らかにする。
- また、市場から多様なユーカリ品種の産地化が求められていることから、ユーカリ・グニーと特徴の異なる4品種の栽培実証ほを設置し、新規品種の中予地域における適応性を調査する。



新植ユーカリ・グニーの樹形づくり



新規ユーカリ4品種の定植

■さといも「愛媛農試V2号」の産地化を推進

- 地域農業育成室は5月12日、JAえひめ中央及び農林水産研究所と連携し、さといも「愛媛農試V2号」の大量増殖法を実証するため、伏せ込みを行っていた親芋から出芽した副芽をセルトレイに定植した。
- JAえひめ中央では、一昨年からさといも「伊予美人」の産地化に取り組んでおり、産地拡大には優良種芋の確保が重要であることから、当室が主体となり実証を開始している。
- また当室は、5月23日にJAが実施した現地栽培講習会において、芽かぎ作業の実演やかん水、病害虫防除等の管理ポイントを説明した。
- 今後も当室は、様々な機会を活用して生産者に安定生産技術を普及し産地化を進める。



副芽をセルトレイに定植



現地栽培講習会

■さといも「媛かぐや」の安定生産に向けて

- 地域農業育成室は5月13日、さといも「媛かぐや」の安定生産技術を実証するため、農林水産研究所と連携し、東温市の農家において農林水産研究所が開発したセル苗育苗の実演・指導を行った。
- 「媛かぐや」は、種芋をそのまま定植すると芋が1kg以上と大きくなり、青果販売を目的とするサイズ(500~800g)には適さないため、貯蔵中に萌芽した芽を切り取り、セルトレイへ定植した。
- 当室では、関係機関と連携し、青果販売を目的とするサイズを安定的に生産できる栽培方法を普及し、特産品化を進める。



利用する芽



芽の切り取り

■「シロガネコムギ」の収穫始まる

- 伊予農業指導班は、はだか麦の需給改善を図るため、伊予地区において小麦「シロガネコムギ」の生産振興に取り組んでおり、このほど収穫期を迎えた。
- 当地区では、37.2ha（伊予市：14.7ha、松前町22.5ha）が作付けされ、11月上旬に播種したほ場では5月23日から収穫が始まり、6月上旬にはほとんどのほ場で終了する見込みである。
- 伊予農業指導班では関係機関と連携し、播種期別の生育状況や一発肥料の種類別の生育状況等を調査しており、結果をもとに次年産での適期播種や最適な一発肥料の選定に役立てる。



小麦の収穫（松前町中川原）

■「媛かぐや」の育苗を指導

- 伊予農業指導班では5月20日、伊予地区の一次産業女子グループ”葉れるや”メンバーを対象に、さといも「媛かぐや」の育苗を指導した。
- 「媛かぐや」は県育成品種で、親芋、子芋ともに食用に適し、粉質で加工用途にも期待されているが、種芋を直接定植すると、萌芽、生育が不均一になる課題がある。
- 県農林水産研究所が確立した「媛かぐや」のセルトレイに移植する技術について、実演を交えながら、種芋に芽が残っているか注意するなど育苗ポイントを指導した。
- ”葉れるや”では、収穫した「媛かぐや」を今年のイベント等で販売をしたいと意欲的に取り組んだ。
- 当班では、今後も栽培を指導し、「媛かぐや」の生産振興に繋げる。



普及職員による育苗指導

■さといもの省力栽培に向けたハイクリ乗用型管理機による土入れ作業を実演

- 伊予農業指導班では5月26日、高収益作物としてさといもの栽培面積が増えていることから、県農林水産研究所と連携し、集落営農組織等関係機関を対象に、ハイクリ乗用型管理機による土入れ作業を実演した。
- さといもの土入れ作業は、子芋からの萌芽を促進し、収量・品質向上のための必須作業であるが、従来の一輪管理機では重労働となり、面積拡大へ向けた課題となっていた。
- ハイクリ乗用管理機により、作業時間が約1/3に短縮され、また、茎葉をまたぎながらの作業ができるため、1回の往復で実質4畝の土入れが可能になる。
- 土入れ作業への負担が大きく改善されることから、生産者は高い関心を示し、質疑応答では活発な意見交換が見られた。
- 県農林水産研究所では、さといも大規模省力生産技術の開発に向けて幅広い分野での研究を行っており、今後、当班では連携して調査や実証試験を実施し、生産者の所得向上を目指す。



ハイクリ乗用型管理機と一輪管理機による実演



土入れされたさといもの畝

【ハイクリ乗用管理機】

最低地上高が600～700mmと高く、さといもの茎葉をまたいだ土入れ作業が可能で、アタッチメントを交換することで防除作業も可能となる。



中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班

■第1回久万高原ブランドづくり推進会議の開催

- 久万高原農業指導班は5月30日、JA松山市久万経済センターにおいて、町・JA等関係機関に雑穀生産者を交え、本年度の事業計画について検討した。
- これは、地方局予算事業「久万高原地域食材伝承事業」に基づくもので、雑穀の生産振興、郷土料理の伝承活動、雑穀の新たな商品開発等を目指している。
- 雑穀料理専門家の鳥越アドバイザーからは「雑穀は災害食にもなるし、世界的な流れで今後注目される。雑穀をどのようにして食べるのかという声に応えて行きたい」等の助言をいただいた。
- 当班では、雑穀は少ない労力で栽培でき、軽量で高齢者にも取り組みやすいことに加え、生産拡大は高齢者の生きがいづくりや耕作放棄地対策、地域食材の伝承にもつながることから、今後も関係機関と連携し指導していく。



推進会議

南予地方局 地域農業育成室

■被災園地の早期営農再開に向けた協議を実施

○地域農業育成室は5月12日、豪雨被害後のかんきつ農業復興を支援するため、JAえひめ南、宇和島市、県(地方局農業振興課・農村整備課)で組織する「営農支援班」を開催し、営農再開に向けた園地・基盤づくりや早期成園化に向けた大苗育苗などについて意見交換を行った。

○会議では、生産者から要望のあった園地整備後の固い土壌の改良や、新品種(紅プリンセス)の推進方策等について具体的な協議を行い、土木用オーガによる植穴掘りの実証や、広報誌を活用した栽培推進等を計画的に進めていくことを申し合わせた。

○今後、再編復旧園地の完成に伴い随時営農が再開されることから、当室では引き続き関係機関と連携し、園地条件に応じた新技術の導入や早期成園化に向けた技術支援を行う。



営農支援班会議

■セル苗を用いた種用さといも栽培の挿し芽を実施

○地域農業育成室は5月13日、JAえひめ南三間育苗センターで同JAと連携し、セル苗を用いた種用さといも栽培にかかるセルトレイへの挿し芽を行った。

○4月に頂芽と腋芽をくり抜いた親芋を高湿・高湿下で約1ヶ月伏せ込み、副芽を萌芽させた親芋から芽を切り出してセルトレイに移植。

○今年度は、管内で6戸の農家がセル苗を用いた種芋栽培に取り組む予定で、今回、50穴セルトレイ24枚分(約1,200本)の苗を作出。

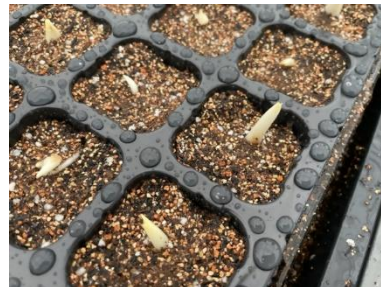
○今後、ハウス内で1～1.5か月程度育苗し、本葉約2.5葉時に本ばへ定植する計画で、6月中～7月上旬には農家への定植講習会を予定しており、当室では引き続き関係機関と連携し、優良種苗の生産・供給による新たな産地づくりと本県さといも生産の振興に繋げる。



副芽を萌芽させた親芋



副芽のくり抜き



セルトレイへ挿した副芽

■年収1千万円の実現に向け第1回担い手育成戦略検討会議を開催

○南予管内の地域農業育成室（農業指導班）及び産地戦略推進室は5月19日、地方局予算事業「南予儲かる農業人材育成事業」にかかる「第1回担い手育成戦略検討会議」を開催した。

○当日は、6拠点の普及職員33人が、新規就農者の重点指導を総括する「担い手チーム」、年収1千万円を実現するための経営モデルを作成する「経営指標チーム」、先進技術や新規導入品目の実証を行う「実証チーム」に分かれて協議し、事業の方向付けや当面の活動について情報共有を図った。

○南予管内の普及拠点では、今回の協議結果をもとに重点指導対象者に対するきめ細かな対応を実践し、年収1千万円農業者の育成に向けて活動を進める。



事業推進に向け協議する担い手チーム

■未来の地域農業を担う果樹同志会の取組を支援

○地域農業育成室は5月20日、宇和島市、JAえひめ南、地方局（農村整備課、農業振興課）と連携し、補助事業活用研修会の開催に向けた検討会を実施した。

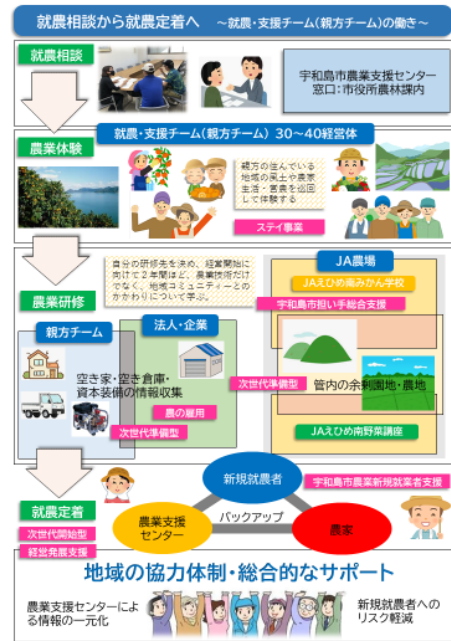
○これは、南予果樹同志会立間地区から、活用可能な補助事業について学ぶ研修会を計画したいという相談があったことがきっかけ。同志会員からの「地域農業の将来への夢を描きたいが、事業を有効活用した道筋が分からない」「補助事業は縦割りで全体像が掴みにくい」という声を受け、同志会活動の一環として補助事業活用研修会が企画された。

○当初は、同志会が局、JA、市へ個別に依頼していたが、当室が研修会の趣旨を汲み取り、コーディネーターとして支援。JA、市だけでなく、園内道等の支援が可能な農村整備課、制度資金の借入が可能な公庫等の関係機関を巻き込み、体系的な事業説明が可能となるよう、打ち合わせを行った。

○研修会は6月末の開催を予定。当室は、今後、この活動を地域全体に広げ、地域農家と密着した普及活動を展開する。

■「就農支援チーム」の構築に向けて、受入れ農家の意向調査を実施

- 地域農業育成室は、地域の農家が主体となった就農支援体制を構築するため、宇和島市、JAえひめ南と連携し、「就農支援チーム」(親方チーム)の立ち上げを目指している。
- 現在、宇和島地区では、地区外からの就農希望者に対する研修を基本的に1農家が対応しているため、複数の農家を廻って自分に合った技術を学べず、研修終了後の就農時にも農地や住居の確保が難しい事例があることから、これらを一体的にサポートする「親方農家」と地域がバックアップできる体制を提案。
- 第一歩として、関係機関と分担し、5月下旬から親方候補農家を個別訪問して、就農希望者の研修受入れについての意向調査を実施。
- 調査後は、親方農家を集めた親方農家研修会等を実施し、就農希望者の定着に向けた支援を行うこととしている。



「就農支援チーム」のイメージ

■桃及び加工桃の栽培講習会を開催

- 鬼北農業指導班は5月18日、JAえひめ南鬼北支所と連携し、生食用桃及び加工用桃の生産者を対象に栽培講習会を開催した。
- 当日は、摘果や袋掛け、新梢管理など、収穫期までの栽培管理について指導を実施。参加者からは「新梢管理の具体的な方法がよく分かった」「帰ったら自分の園地でも試したい」との前向きな感想があり、適期作業が重要な時期における栽培意欲の醸成に繋がった。
- 宇和島市からも、高級菓子店向け加工桃新規生産者が参加し、熱心に質問し、栽培方法についての理解を深めた。
- 同班では引き続き、出荷講習会や冬季のせん定指導を通じ、栽培技術の向上と桃及び加工桃の生産振興に繋げる。



栽培管理のポイントを説明



新梢管理方法を実演

■ドローンを用いた除草剤散布で水稻栽培の省力化を実証

- 鬼北農業指導班は5月27日、鬼北町内の大規模水田農家、農薬メーカーと連携し、水稻栽培における省力化技術の実証として、ドローンを用いた除草剤散布による作業時間の短縮効果を調査した。
- 今回の試験では、成分の拡散性が高い薬剤を用い、水田の中心部を往復飛行のみで散布する方法（実証区）と従来の水田全面を飛行する方法（慣行区）を比較。
- 散布時間は、水田の中心部を往復飛行する方法が1分9秒、全面飛行する方法が2分10秒となり、実証区における時間の短縮を確認。抑草効果についても後日確認を行い、有効性と普及性を検討することとしている。
- 当班では引き続き、水稻の省力化栽培技術の普及を目指し、技術実証や導入支援等に取り組む。



水田の中心部を往復で散布



薬剤成分の拡散

■キウイフルーツ雄樹の花蕾を初収穫

- 鬼北農業指導班は、松野町で実施しているキウイフルーツの花粉ビジネスにおいて、5月6日から町内3戸の農家で雄樹の花蕾採取が始まったことを受け、果樹研究センターと連携し、同農家や同町農林公社に収穫から検定までの手順を指導した。
- 当日は、早朝にバルーン状の花蕾を中心に収穫したものを公社に搬入。採葯後、乾燥機で18時間乾燥した後、サイクロン精製機で異物等を除去。その後、同センターと指導班の支援のもと、公社2人の職員がキウイフルーツかいよう病の検定を行った。
- 今年収穫された花粉は、福岡県内の花粉業者から全農えひめを通じて県下のJAに配布され、来年産の受粉に試用される予定となっている。



キウイフルーツ雄樹から花蕾を採取



採取した花蕾の形状

■第1回有機農業講座を開催 ～微生物農薬を利用したカミキリムシ防除について～

- 鬼北農業指導班は5月31日、JAえひめ南鬼北営農センターと連携し、有機栽培に準じた生産を行うゆず農家を対象に、ゴマダラカミキリの防除資材であるバイオリサカミキリの設置講習会を開催した。
- 当日は、ゴマダラカミキリの生態や被害の特徴、バイオリサカミキリの設置方法等を説明した後、実際に指導班内のゆず園地に設置。参加者からは資材の効果的な設置方法等について活発な質問が出された。
- 同班では今後、10月、1月にも講座の開催を予定しており、有機栽培技術の普及に繋げることにしている。

※バイオリサカミキリ:カミキリムシに対し高い殺虫効果を示す糸状菌を不織布で培養した資材で、虫体が触れると1～2週間後に菌糸に覆われ死亡する。



室内研修



ほ場研修 (実演)

■鬼北のきゅうり産地に若手新規栽培者が誕生

- 鬼北農業指導班は5月11日、鬼北町と連携し、同町農業公社で研修修了を控えた就農予定者1人を対象に、農地とハウスを提供したい意向のある生産者とのマッチングを支援。
- 当日は、建設業者等も交え、候補として選定した農地と空きハウスの活用方法を検討した結果、10月に夫婦で就農し、きゅうりの栽培開始に向けた準備を進めることになったことから、当班では、研修修了までハウスきゅうりや夏秋ナスなど、果菜類の栽培技術習得に向けた支援を行い、円滑な就農をサポートする。
- また、別の若手新規栽培者1人に対しても、高単価が期待されるきゅうりの7月定植に向けた経営開始を支援しており、きゅうり産地の再興を目標に、引き続き若手の新規栽培者や就農候補者等に対する技術・経営支援を展開する。



空きハウス活用の現地検討



研修ハウスでのきゅうり栽培

■農業用無人ヘリコプターを活用した水稲防除を検討

- 愛南農業指導班は5月20日、JAえひめ南南宇和営農センターで、令和4年度の水稲ヘリ防除について関係機関と協議を行った。
- 南宇和地区の農業用無人ヘリコプターによる防除は、早期米の品質向上と農薬散布作業の軽減を目的に平成17年頃から始まり、現在では、水稲作付面積の約3割、11地区、90ha(延べ140ha)で実施している。
- 打合せ会では、関係機関や農家代表者と今年産の早期米の生育状況や病害虫の発生状況について、防除時期や薬剤の検討を行った。
- 令和4年産早期米の生育は、3～4月の降雨不足や低温により、5～7日程度の遅れがみられたが、天候の回復とともに平年並みに近づいており、昨年と同時期の7月5日からの防除開始を取り決めた。
- 同班では、今後も定期的に水稲巡回指導や講習会等を実施し、水稲の栽培支援を図っていく。



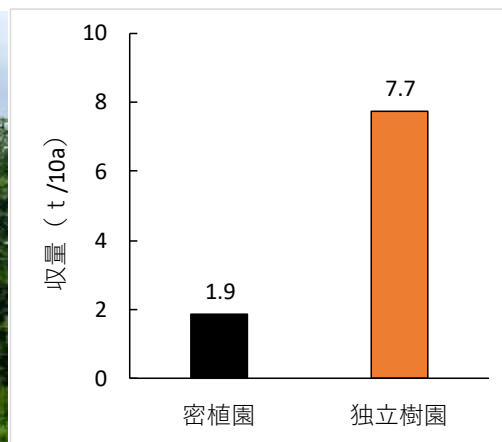
資料に基づき水稲生育状況について説明

■「河内晩柑」の縮間伐による省力化を推進

- 愛南農業指導班は5月19日と20日、JAえひめ南と連携し、味楽共選南宇和支部の生産者26人を対象に、「河内晩柑」の密植園の解消を目的としたせん定方法を指導した。
- 当班ではこれまでに、樹間が広く、隣の樹と枝が接触しない「独立樹園」では樹冠下部まで光がよく当たり、枝や着果量が多く、脚立などを使用しない収穫作業が可能となり、作業効率も良いことを明らかにしており、密植状況の改善により「独立樹園」にするための縮間伐を推進している。
- 当班では引き続き、同JAと連携し、「河内晩柑」の樹形改善による作業の省力化を進めることとしている。



縮間伐する樹を説明



密植園と独立樹園の収量

■「河内晩柑」の省力栽培に向けた動画マニュアル制作がクランクイン！

- 愛南農業指導班は5月18日～25日にかけて、地方局予算事業「南予儲かる農業人材育成事業」を活用し、新規就農者を対象とした「河内晩柑」の縮間伐やせん定について、写真と動画の撮影を行った。
- 本取組は、縮間伐する幹や除去する枝の判断に迷う新規就農者のため、ドローンやビデオカメラを用いた作業写真や動画により、作業のポイントや手順等のマニュアル化を目指すもの。
- 撮影にあたっては、事前にドローンで撮影した画像に間伐予定の樹をマークするなどの打合せを行い、チェーンソーによる間伐を実施。また、せん定のポイントをわかりやすく示すため、普及指導員が行うせん定の様子を新規就農者が自らの目線でビデオ撮影した。
- 当班では、今後、夏秋梢のせん定方法を撮影するとともに、これらが収量や正品率に及ぼす影響等について調査を行うことにしている。



間伐前の園地（○印が永久樹）



間伐後の園地



せん定動画の撮影

■愛南地区青年農業者協議会が優良農業実践集団知事表彰を受賞

- 愛南地区青年農業者協議会は5月18日、「第58回愛媛県若い農業経営者大会」において「優良農業実践集団知事表彰」を受賞した。
- 愛南農業指導班は、同協議会の事務局として、活動の企画立案や指導助言、会員相互の親睦促進などを支援。
- 今回の受賞は、青年農業者がブロッコリーの根こぶ病対策、甘夏等の水腐れ症対策、農業用水水源地のアオコ低減実証等の地域の課題解決に意欲的に取り組み、地域農業の維持、発展に貢献したことが優良実践集団として評価されたもの。
- 同協議会では、この受賞を糧に今後も青年農業者の若い力を結集し、地域農業の活性化に寄与する組織として、プロジェクト活動、地域貢献活動等を実施していくこととしており、当班では引き続き同協議会の活動を支援していく。



知事より表彰を受ける青年農業者

■「河内晩柑」ジュースのお接待で生果・加工品・GTメニューを紹介

- 愛南農業指導班は5月3日、40番札所「観自在寺」への参拝者を対象に「河内晩柑」の生搾りジュースをふるまう愛南生活研究協議会の“お接待”の活動支援と併せ、「えひめグリーン・ツーリズムナビ」のメニューとして「飲むゼリー・ジュース作り体験」を紹介した。
- “お接待”は、コロナによる中止を経て3年ぶりの再開となる中、5月5日までの3日間で約340人にジュースを提供。あわせて「河内晩柑」の生果や加工品（ジュース、ゼリー等）の販売・PRも行われ、賑わいを見せた。
- 当日、「河内晩柑」ジュースを飲んだ人からは「サッパリしていて、甘くておいしい」「ジュースをお土産に買って帰りたい」などの声が聞かれた。
- 当班では、今後も同組織と連携し、消費者との交流や地域特産品のPRを行っていく。



お接待を受ける参拝者



地域特産品のPR

南予地方局 産地戦略推進室

■ゆず園地での排水不良対策実証ほを設置

- 産地戦略推進室では、5月18日、鬼北町のゆず栽培園地において、オーガ（小型穴あけ機）を用いた排水性向上対策の実証ほ設置を行った。
- 鬼北地域では近年、ゆずの新植が進んでいるものの、水田転換園が多いことから排水不良による初期生育の遅れが問題となっている。そこで、既にゆずが新植され数年経過している園地を対象に、地下の水が溜まりやすい層をオーガにより破壊し、排水性を向上させることで生育を促進させることを目的に取り組んだもの。
- 1穴あたりの作業時間は5分程度で、下の層まで到達したことを確認したうえで、掘削した穴へ土を埋め戻した。
- 当室は、土壌水分量の継続的な調査とともに、新梢伸長や果実の生育状況等を把握し、排水対策の効果を検証することとしている。



オーガでの掘削



樹間に一定間隔で穴を配置

■「つるむらさき」の産地化推進に向けて

- 産地戦略推進室とJAえひめ南は5月24日、軟弱野菜部会つるむらさき班を対象に栽培講習会を開催し、生産者13人が参加した。
- 熱帯アジア原産の葉物野菜である「つるむらさき」は、マイナー品目ではあるものの栽培が比較的容易で一定のニーズがあるため、三間地域を中心に着実に新規栽培者が増加している。特に令和4年産は生産者が8人増加し、栽培面積は約1.0haと前年比1.4倍となっている。
- 当日は、栽培管理指導や出荷要領の確認のほか、現地ほ場において収穫方法や栽培上のポイントなど農家間での情報交換を行い、主に新規栽培者の不安解消や技術向上を図った。
- 夏場の所得確保や省力品目として有望であることから、当室は、巡回指導強化による新規栽培者へのフォローを行うとともに、生産者全体の技術の底上げを図り、安定生産を目指していく。



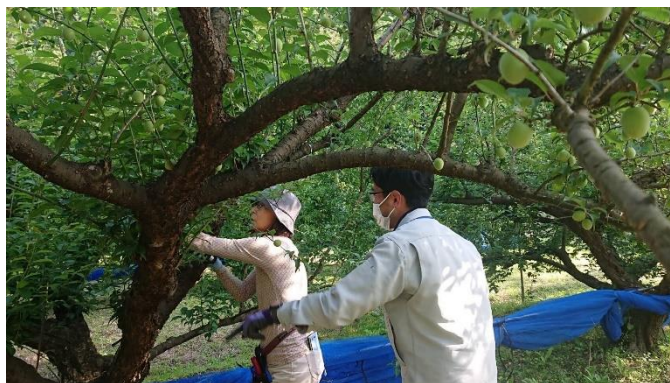
現地ほ場における情報交換



みま産 つるむらさき

■うめ春季摘心処理技術の普及へ個別指導を強化

- 産地戦略推進室は5月、冬季せん定の省力化及び増収につながる技術として普及を進める春季摘心処理技術の個別実践指導を行った。
- 昨年度までの調査で、同処理によって徒長枝の発生が抑制され、冬季せん定作業の負担軽減が図られることや、樹冠内部への採光改善による花芽着生の向上を確認しており、今年度の調査でも前年の処理枝への結実が認められている。
- 5月10日、25日の生産者会合での同処理の効果説明に加え、希望する若手生産者を中心に、それぞれの園地において、作業ポイントや処理方法を詳しく説明した。
- 当室は、今後も省力化と増収につながる本技術の普及をさらに進めることとしている。



摘心処理の個別指導

八幡浜支局 地域農業育成室

■スマート農業技術の普及に向けた活動計画を検討

- 地域農業育成室は5月10日、当室が中心となって運営している西宇和スマート農業推進協議会の通常総会をJAにしうわ本店で開催し、今年度の活動計画等の検討を行った。
- 総会では、気象ロボット、アシストスーツ、AI選果機等の実証結果を報告し、更なるデータの蓄積や普及に向けた活動を行うこととした。
- 特に今後は、成果の普及に重点を置くこととしており、アシストスーツの実演・販売やCATVによるシトラス講座の情報発信と合わせて、スマート農業フォーラムやAI選果機実証セミナー（中晩柑）を開催する予定である。
- なお、本年度、県域において「スマート農業推進協議会」が設立されたことから、当室では本協議会との情報共有も図りながら推進する。



今年度の活動計画について検討

■マルドリ栽培モデル園で技術研修会を開催

- 地域農業育成室は5月20日、地方局予算事業「西宇和地域柑橘集落営農支援事業」に係る支援協議会を開催し、今年度の活動計画を検討するとともに、昨年度末に設置したマルドリ栽培モデル園で技術研修会を行った。
- 室内では、経営技術の習得、就農相談会への参加、基盤整備先進事例視察等、本年度の計画について説明するとともに、集落の組織化に関する動きについて意見交換を行った。
- モデル園では当室職員が、3月に定植した「愛媛果試第48号」（紅プリンセス）の苗木の状況と、早期成園化に向けた水管理技術のほか、液肥混入機の操作やメンテナンス方法について説明を行い、法人や協議会員の技術習得を図った。
- 当室では、本事業での研修会等を通じ、労務管理などの法人の経営力強化やマルドリ栽培の技術習得を進め、周辺集落への波及を図っていく。



マルドリ栽培モデル園での研修

■冷蔵貯蔵の「清見」を大型商業施設でPR

- 地域農業育成室は5月21日、エミフルMASAKIにおいて、三崎青壮年同志会員ら15人とともに、同産地が取り組む冷蔵貯蔵した「清見」のPRと販売会を実施。
- 冷蔵貯蔵の「清見」は、多孔質鮮度保持フィルムにより6月まで販売期間を延長でき、今年約10tの販売を見込んでいる。
- 当日に実施したアンケート調査(236人)では、産地の取組を知らなかった消費者の内、約90%が「取組を理解した」と回答。また、「イベント以外ではどこで購入できるのか」「いつまで販売するのか」などの質問があり、産地の取組や商品に対する理解が深まった。
- 当室は、引き続き、「清見」の夏季販売量拡大に向け、生産者・関係機関と連携して取り組む。



生産者による「清見」の販売会



生産者が消費者に産地の取組を説明

■「清見」の夏季販売について大規模小売店と商談

- 地域農業育成室は5月27日、(株)ダイエーのオンライン販売担当のバイヤーと、来年度における夏季販売用「清見」の取引に向けた商談を実施。
- 商談では、当室が産地への導入を支援した長期貯蔵技術(多孔質鮮度保持フィルムにより果実を個包装し冷蔵貯蔵)などについて動画を用いて紹介した。
- バイヤーからは、「冷蔵貯蔵により味や品質は向上するのか」「販売量はどれくらい確保可能か」といった質問や、「全国的に見ても珍しく、非常に面白い取組」といった発言があり、関心の高さがうかがえた。
- 当室は、今後も同社と商談を続けるとともに、販路拡大に伴う夏季販売用果実の生産拡大を目指す。



産地の魅力や商品を紹介したPR動画を用いた商談を実施

■一次産業女子グループ「∞農(はちのう)Harvest」が組織力を強化

- 地域農業育成室は、八西地区の若手女性農業者9人で構成するグループ「∞農 Harvest」に対して、メンバー同士の交流や経営上の悩みに対する意見交換の場の提供等を行いながら、今後は会員の資質向上を図るため、しっかりとした組織として活動するよう提案していた。
- こうした中、5月30日、「∞農 Harvest」が、規約作成、会費運営、会長選任等により、組織としての機能を強化するため、設立総会を開催。
- 今後、「一次産業女子就農促進事業」等の補助事業を活用し、SNS等での情報発信や商品開発等に向けた研修等、女性ならではの視点を生かした活動を展開する予定であり、当室では、これらの活動支援を通して、女性リーダーの育成や女性活躍促進に努める。



「∞農 Harvest」設立総会

■消費者ニーズに合った柿生産に取り組む

○大洲農業指導班は4月下旬から5月上旬にかけて、JA愛媛たいき柿部会と連携し、柿の摘蕾講習会を開催。

○摘蕾は、適正な着果量確保や階級生産のため、不要な蕾を除去する作業であるが、近年は消費者嗜好に合わせた階級づくりを目指しており、大玉が望まれる「刀根早生」は2L目標のため、葉数5枚以下の場合には全摘蕾、大玉が敬遠されがちな「富有」はL玉も確保するため5枚以下でも1蕾残しとするなど、基準を変更している。参加者は、消費者ニーズに合った柿生産ができるよう、熱心に耳を傾けていた。

○当班では、今後、早期出荷により高単価販売が可能な「刀根早生」について、早熟効果の高い環状剥皮・キュアリング処理の講習会を計画しており、消費者ニーズを的確に捉えた生産指導を行っていく。



柿の摘蕾講習会

■イノシシの捕獲強化に向けた取組み推進

- 大洲農業指導班は5月18日、鳥獣被害対策のモデル集落として、今年度新たに設定した大洲市長浜町出海において、有害鳥獣捕獲従事者にセンサーカメラの設置方法を指導した。
- イノシシの捕獲強化のためには獣道を見極めることが不可欠であるため、カメラを獣道に対し斜角に、少し見下ろすような高さに配置することで鮮明に映像に収められることなど、有効な方法を実際に設置しながら説明。
- 当班では、これまでのモデル地区においてもその効果を確認していることから、鳥獣害対策の「攻め」の起点となるセンサーカメラの設置技術を身につけた捕獲従事者を増やし、イノシシの「被害ゼロ」達成に向け、引き続き捕獲強化に向けた支援を行う。



餌付け状況の聞き取り



センサーカメラの設置

■ぶどう用アシストスーツの実用性を検証

- 大洲農業指導班は5月26日、JA愛媛たいきぶどう部会の摘粒講習会において、ぶどう用アシストスーツを実演した。
- 今回使用したアシストスーツは、主に摘粒作業における腕の負担軽減を図るものであり、長時間装着して実際に作業した際の効果を確認するため、ぶどう生産者に1～3日ずつ貸し出し、効果や問題点について聞き取りを行っている。
- 装着した生産者からは、「確かに腕が楽になる」という高評価があった一方で、「腰のベルトが落ちる」「腰に重さがかかって痛い」といった問題点も聞かれた。
- 当班では今後も、西予農業指導班及び果樹研究センターと連携しながら、実用性の検証とメーカーへの課題のフィードバックを行う。



アシストスーツの実演会



摘粒作業で効果を確認

■「ひめの凜」の普及拡大に向けた実証ほ設置

- 西予農業指導班は5月中・下旬に、「ひめの凜」の面積拡大及び高品質・高収量モデルの構築に向けた実証ほを7か所設置した。
- 管内の「ひめの凜」は、栽培面積33.7ha、(昨年30.2ha) 認定栽培者46人(同37人)で、年々増加しており、栽培者の高品質・安定生産に向けた関心も高まっている。
- 当班では今後、過去の実証成果を踏まえ、移植後30日の適期中干しの徹底や、月2回の生育調査を実施し、生育状況に応じた適正管理の指導により産地力強化を推進していく。
- なお、本年は一部ほ場でいもち病の発生を確認。罹病苗(苗いもち)の移植とその置き苗が原因と考えられたことから、置き苗の撤去と応急防除を指導し、今後の発生拡大防止に努めている。



「ひめの凜」実証ほで生産者を指導

■麦類の収穫適期を予測し、管理を徹底！

- 西予農業指導班は5月16日、JAひがしうわと連携し、麦類の適期刈取り時期を確認するため、生産者7人とほ場巡回を実施。
- その結果、はだか麦の収穫適期日は5月18日から5月末頃、小麦は6月上旬頃からと予測。今後、適期刈取りの指導を行うこととしている。
- 管内の麦類の栽培面積は、はだか麦20ha(昨年比67%)、小麦180ha(同106%)で、はだか麦の栽培面積が減少し小麦の面積が拡大している。
- なお、一部ほ場で赤かび病の発生が見られたことから、当班では、今後の発生状況に注視するとともに適正な対策指導を行う。



生産者と成熟期を確認

■加工・業務用青ねぎ生育・収穫予測システムの実用化に向け生育データを集積

- 西予農業指導班は5月18日、(株)百姓百品村と連携し、加工・業務用青ねぎの計画出荷に向けた生育・予測システムの実用化を目指し、生育データ集積のため、青ねぎ栽培ほ場で調査を実施した。
- この調査は、予測値の精度向上を目的に実測値をシステムに反映するため実施しており、収穫期まで定期的に行う。
- 加工・業務用青ねぎは、実需者との契約出荷となり定時・定量出荷が求められているが、露地栽培では、気象条件に左右されやすく、複数回収穫を繰り返すため、常にほ場ごとの生育状況把握に時間と手間を要しており、システムの活用により、計画出荷はもとより巡回に要する労働力の削減効果も期待できる。
- 当班では、より多くの生育データを集積することで、生育・予測システムの精度を高め、生産拡大につなげることを目指す。



青ねぎほ場での生育調査を実施

八幡浜支局 産地戦略推進室

■ R4年産川田温州の連年安定生産に向けて！

- 産地戦略推進室は5月17日、川田温州の連年安定生産に向けて、生産者14人を対象にみかん研究所及び八幡浜市内の生産園地で、半樹交互結実における芽花管理研修会を開催。
- 当技術導入園では旧葉の落葉は少なく、樹勢は良好。当室が作成した栽培マニュアルに準じて、着果枝側は被さり枝の処理による着果促進、未着果枝側は摘芯処理で母枝確保に務めるよう講習を行った。
- 現在、当技術は1.7ha(実施率80%)で普及し、10a当たり収量は平均1.0tから1.5tに増加し安定生産に繋がっている。
- なお、新規生産者の掘り起しに取り組んだ結果、今回の研修会には就農間もない青年農業者4人が新たに参加した。

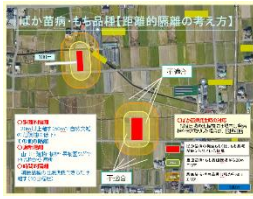
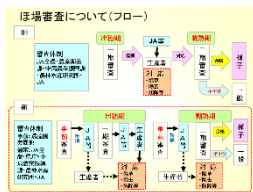
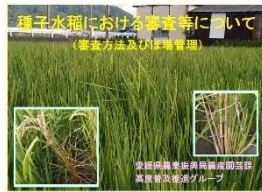


新梢管理のポイントを講習

農産園芸課 高度普及推進グループ

■ 水稻採種ほにおける種子の品質向上を目指して

- 高度普及推進グループは5月31日、採種ほ場のある北伊予・南伊予の3か所で、種子生産者や関係者等（延べ74人）を対象とした栽培技術向上研修会を開催した。
- 研修会では、新型コロナウイルスに対応した効率的な審査体制の変更点や審査のポイントについて周知するとともに、令和3年度の審査結果を基に、審査基準の遵守のために必要な雑草管理や病虫害防除の重要性等について作成した資料に基づき解説した。
- 特に、昨年に問題になった「ばか苗病」や「もち品種（異品種）」の隣接ほ場での発生や作付けについて不適合となる基準（事例）を具体的に示し、早期発見と対策（出穂期までの除去）と地域における作付計画の重要性を説明した。
- 当グループでは、これから本格的な採種ほの作付けとなるため、現地ほ場における作付マップを作成し、効率的な栽培管理の徹底を図る。



採種ほ栽培管理のポイント

「採種技術向上研修会」（伊予市）

■紅プリンセスの根域制限等栽培モデル園で順調な生育を確認

- 高度普及推進グループは、令和2年度普及組織先導型革新的技術導入事業で松山市内の農業法人と連携して設置した紅プリンセス（「愛媛果試第48号」）の根域制限・施設栽培モデル園において、昨年3月に植付けた幼木の早期成園化を支援している。
- 当モデル園では、生育状況や気象条件に応じて点滴チューブとピンかん水を組み合わせた土壌水分管理に加え、施肥や葉面散布によるきめ細かな肥培管理による早期成園化を実証中で、これまでに春芽の伸長量や新葉数の確保など生育促進の効果を確認した。
- 当グループは今後も引き続き、早期樹冠拡大に向けた効果的な栽培管理を実証していく。



春芽の芽かぎで伸長を促進



点滴チューブとピンかん水を併用し、
根域をムラなくかん水

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

| 機関名 | 所在地および連絡先 |
|---|--|
| 東予地方局農林水産振興部 農業振興課 | 西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056 |
| 東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班 | 四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697 |
| 東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室 | 今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724 |
| 東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班 | 今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912 |
| 中予地方局農林水産振興部 農業振興課 | 松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395 |
| 中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班 | 上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592 |
| 中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班 | 伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313 |
| 南予地方局農林水産振興部 農業振興課 | 宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881 |
| 南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班 | 北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152 |
| 南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班 | 南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319 |
| 南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室 | 八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853 |
| 南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班 | 大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284 |
| 南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班 | 西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543 |